

科 目 名		理系のための基礎英語 I				
配 当 学 年		1 年	必修・選択	選択必修	C A P 制	対象
授 業 の 種 類		講義	単 位 数	2 単 位	授業回数	15
授 業 担 当 者		Randy L. Evans		単位認定責任者	Randy L. Evans	
実務経験の有無						
実務経験のある教員名および授業の関連内容						
授 業 科 目 の 概 要		Students will learn general vocabulary used in basic mathematics. This vocabulary is learned by American children in school, from first grade to early middle school. Course content focuses on reading mathematic notations, and listening. This class is held in English. 基本的な数学の単語を学ぶ。この単語はアメリカ人の子供たちが小学1年生から中学校までに学校で学ぶ単語です。この科目では、数学式の英語でのリーディングとリスニングにフォーカスします。全て英語で行います。				
授 業 科 目 の 到 達 目 標		1. 数学関係の英単語を分けることができる。 2. 数学式を英語で読めることができる。 3. 英語を聞いて式を書くことができる。 4. 簡単な文章を読むことができる。 5. 平易な英文を書くことができる。				
学修成果評価項目（%）および評価方法		項目	割合	評価方法		
		基礎学力	80 %	定期試験		
		専門知識	10 %	定期試験		
		倫理観	%			
		主体性	%			
		論理性	%			
		国際感覚	%			
		協調性	10 %	ワークシート		
		創造力	%			
		責任感	%			
授業の展開						
1.	Placement Test プレースメントテスト					
2.	“Numbers” 一般の数字について					
3.	Addition 足し算について					
4.	Subtraction 引き算について					
5.	Multiplication 掛け算について					
6.	Division 割り算について					
7.	Fractions 分数について					
8.	Decimals & Percents 小数とパーセント					
9.	Negative Numbers & Inequalities 負数と不等式					
10.	Exponents & Roots 指数とルート					
11.	Geometry 1: Lines & Angles 幾何学1：直線と角度					
12.	Geometry 2: Polygons, Circles and Solids 幾何学2：多角形、円、立体					
13.	Using Data テーブルを使ってデータを表す					
14.	Review レビュー					
15.	Review レビュー					

2023年度シラバス

授 業 外 学 修 に つ い て	Every lesson has a corresponding eLearning lesson. The eLearning lessons are required, but each student may choose to do them after or before the lectures. 各レッスンに eLearning 教材がついている。eLearning の課題課題は必須。 学生は講義の前か後のどちらかで取り組まなければならない。				
教 科 書	適宜プリントを配付・使用する				
参 考 文 献	なし				
試 験 等 の 実 施	定期試験	その他の テスト	課題・ レポート	発表・プレゼンテ ーション	取組状況等
	○	○	×	×	○
成績評価の割合	60 %	20 %	0 %	0 %	20 %
成績評価の基準	本学の評価基準に基づき、成績評価を行う。 秀（100～90点）、優（89～80点）、良（79～70点）、可（69点～60点）、不可（59点～0点）				
試験等の実施、成績評価の基準に関する補足事項					

(理系のための基礎英語Ⅰ)

科 目 名		英語リーディング I				
配 当 学 年		1 年	必修・選択	選択必修	C A P 制	対象
授 業 の 種 類		講義	単 位 数	2 単 位	授業回数	15
授 業 担 当 者		礒部 靖世		単位認定責任者	礒部 靖世	
実務経験の有無						
実務経験のある教員名および授業の関連内容						
授 業 科 目 の 概 要		読解力を身につけるため、幅広いテーマの英文を用いた読解を行う。また、読解の後はそれに関連した動画（TED Talks）を視聴し、さらに理解を深める。授業名は「Reading」となっているが、本授業では「Reading」だけを扱うのではなく、英語の他の技能（スピーキング、ライティング、リスニング）の能力も併せて強化する。特に、読んだものや見たものを自分のことばでアウトプットすることに重点をおく。また、目的に応じた文章の種類や構造の違いを学び、新出語彙・イディオムや基本的な文法の確認を行う。文章を構成する各パラグラフの関係を把握し全体の主旨を読み解いていくための基本的なリーディング・スキルを習得する。				
授 業 科 目 の 到 達 目 標		1. 長文の英語を読解する際に必要なスキル（スキミングやスキニング）を学習し、リーディングに活用することができる。 2. 英語のパラグラフの構成を理解し、ライティングに活用することができる。 3. 読んだものを自分のことばで英語でまとめることができる（サマリー）。 4. 授業で取り扱うReadingやTED Talkの内容について、自分の意見を英語で書くことができる（180語程度）。 5. 授業で取り扱うReadingやTED Talkの内容について、自分の意見を英語で話すことができる（1分半程度）。				
学修成果評価項目（%）および評価方法		項目	割合	評価方法		
		基礎学力	50 %	その他テスト、レポート等、プレゼンテーション		
		専門知識	%			
		倫理観	%			
		主体性	%			
		論理性	20 %	その他テスト、プレゼンテーション		
		国際感覚	%			
		協調性	%			
		創造力	20 %	レポート、プレゼンテーション		
		責任感	10 %	取組状況等		
授業の展開						
1.	授業オリエンテーション、英語の発音と書き方について					
2.	Unit 2. Fragile Forest メインアイディアの見つけかた、内容からことばの意味を理解する練習					
3.	Unit 2. Fragile Forest （Ted Talk） 目的とサポーティングエヴィデンスを理解する					
4.	Unit 4. Game Changers データを理解する、長所・短所の見つけかた					
5.	Unit 4. Game Changers （Ted Talk） 見たことをまとめる練習					
6.	Unit 5. Lessons in Learning 類似点と相違点を見つける練習					
7.	Unit 5. Lessons in Learning （Ted Talk） 全体的な内容を要約する練習					
8.	Unit 6. Food for Life 問題点とその解決策を読み取る					
9.	Unit 6. Food for Life （Ted Talk） メインアイディアとキーアイディアを理解する練習					
10.	Unit 7. Body Signs 読み物と自分の経験を結びつけて理解をする					
11.	Unit 7. Body Signs （Ted Talk） 時系列を追って内容を理解する					

12.	Unit 9. Changing Perspectives 書かれている情報をスキミングする				
13.	Unit 9. Changing Perspectives (Ted Talk) 話し手のトーンとメッセージを理解する				
14.	Unit 10. Data Detectives グラフを理解する				
15.	Unit 10. Data Detectives (Ted Talk) 情報を分析する練習				
授 業 外 学 修 に つ い て	授業外の予習・復習として、以下の内容に取り組むこと。 (予習 60分) - 教科書の内容や TedTalk に事前に目を通し、新出語彙・イディオムの意味・用法を予習し、事前に提示される教科書の設問に答えておく。 (復習 40分) - テキストの本文の内容、語彙・イディオムを中心に復習をする。 - 授業の内容を踏まえ、教科書の読み物について自分の考えをまとめておく。 - 単語学習には Quizlet を使用するため、各自授業時間外にアプリをダウンロードしておくこと(使い方などは授業内で説明)				
教 科 書	21st Century Reading; Creative thinking and reading with TED talks, Level 2, Laurie Blass, Mari Vargo and Eunice Yeates (Gengage Learning)				
参 考 文 献	特になし				
試 験 等 の 実 施	定期試験	その他の テスト	課題・ レポート	発表・プレゼンテ ーション	取組状況等
	×	○	○	○	○
成績評価の割合	0 %	20 %	35 %	35 %	10 %
成績評価の基準	本学の評価基準に基づき、成績評価を行う。 秀 (100～90点)、優 (89～80点)、良 (79～70点)、可 (69点～60点)、不可 (59点～0点)				
試験等の実施、成績評価の基準に関する補足事項	- 授業への出席回数が3分の2未満の場合には不合格となる。 - 課題は提出期限を過ぎたものや翻訳ツールを使った課題は評価対象外となる。 - 他の学生の課題や文献などをコピーをした場合は「不合格」となる。 - 授業中の居眠りやスマホいじりなどは「欠席扱い」となる。 - 授業の進度や内容などは、状況により変更の可能性がある。				

(英語リーディングⅠ)

科 目 名	英語基礎 I				
配 当 学 年	1 年	必修・選択	選択必修	C A P 制	対象
授 業 の 種 類	講義	単 位 数	2 単 位	授業回数	15
授 業 担 当 者	小川 正浩		単位認定責任者	小川 正浩	
実務経験の有無					
実務経験のある教員名および授業の関連内容					
授 業 科 目 の 概 要	この授業では、英語の基礎力を身につけることに主眼を置いている。これは、大学においてより高度な英語力を身につけ、仕事に使えるような実践的な英語運用能力を修得するためには、まず「土台」を堅固なものにしないといけないからである。具体的には、演習問題、文法・語彙・音声の教材を用いながら、総合的な英語運用能力の修得のための基礎となる・語彙力、基礎文法力・構文力、読解力、聴解力を身につけることを目指す。特に授業においては、英文解釈の演習問題を通して英文構造の分析と把握に努めていく。				
授 業 科 目 の 到 達 目 標	1 副教材から英文法の知識を再編して、構文を論理的にとらえる力とともに、英文内容を正確につかむための基礎力を養うことができる。 2 授業中に課される演習問題を通して、上記 1 の基礎力の定着を図ることができる。 3 TOEIC の音声教材から、リスニングの演習問題を通して、TOEIC の形式に慣れるとともに基礎的な聴解力の向上を図ることができる。 4 副教材から、理工系学生のための必修英単語 2 6 0 0 語を習得できる。 5 多読によって簡単な物語や身近なことに関する英文を和訳せずに早く読むことができる（直読直解）。				
学修成果評価項目（％）および評価方法	項目	割合	評価方法		
	基礎学力	60% %	期末テスト、語彙小テスト		
	専門知識	%			
	倫理観	%			
	主体性	20% %	課題提出（多読・リスニング・文法）、予習（小テストの準備）		
	論理性	20% %	授業中の演習問題（英文解釈・文法クイズ）		
	国際感覚	%			
	協調性	%			
	創造力	%			
	責任感	%			
授業の展開					
1.	ガイダンス（授業の進め方など）				
2.	演習問題：文型判断、多読シート・リスニング・文法課題提出、語彙小テスト				
3.	演習問題：接続詞、多読シート・リスニング・文法課題提出、語彙小テスト				
4.	演習問題：句と節、多読シート・リスニング・文法課題提出、語彙小テスト				
5.	演習問題：形と意味①、多読シート・リスニング・文法課題提出、語彙小テスト				
6.	演習問題：形と意味②、多読シート・リスニング・文法課題提出、語彙小テスト				
7.	演習問題：準動詞①、多読シート・リスニング・文法課題提出、語彙小テスト				
8.	演習問題：準動詞②、多読シート・リスニング・文法課題提出、語彙小テスト				
9.	演習問題：後置修飾、多読シート・リスニング・文法課題提出、語彙小テスト				
10.	演習問題：文頭の句・節、多読シート・リスニング・文法課題提出、語彙小テスト				
11.	演習問題：同格、多読シート・リスニング・文法課題提出、語彙小テスト				
12.	演習問題：倒置、多読シート・リスニング・文法課題提出、語彙小テスト				

13.	演習問題：省略、多読シート・リスニング・文法課題提出、語彙小テスト				
14.	演習問題：名詞構文、多読シート・リスニング・文法課題提出、語彙小テスト				
15.	まとめ				
授 業 外 学 修 に つ い て	授業外学習は、以下の項目に毎週少なくとも4時間程度あてることが望ましい。 1 語彙テキストの予習（小テストの準備） 2 リスニング・文法テキストの予習（課題提出） 3 多読の課題（1週間に2500語以上読んで多読シートを提出）				
教 科 書	1 江熊聡子他『TOEIC TEST リスニングナビゲーター』（成美堂） 2 亀山太一監修『理工系学生のための必修英単語2600』（成美堂） 3 リチャード・ベスト他『英語力診断クイックチェック』（南雲堂） 授業における演習問題についてはプリントを配布する。 また、上記3冊の副教材は秋学期の「英語基礎Ⅱ」でも使用する。				
参 考 文 献	特になし。				
試 験 等 の 実 施	定期試験	その他の テスト	課題・ レポート	発表・プレゼンテ ーション	取組状況等
	○	○	○	×	○
成績評価の割合	50 %	10 %	30 %	0 %	10 %
成績評価の基準	本学の評価基準に基づき、成績評価を行う。 秀（100～90点）、優（89～80点）、良（79～70点）、可（69点～60点）、不可（59点～0点）				
試験等の実施、成績評価の基準に関する補足事項	・評価や授業の進め方、辞書の携帯等に関しては、ガイダンス時に詳細に説明するので、履修希望者は必ず出席すること。 ・授業は、「対面授業」のスタイルで行う。また、実際の授業にあたって上記の授業内容に変更が生じる場合があるかもしれないことを予めご了承下さい。変更が生じる場合は、ガイダンス時、または授業中に連絡する。				

2023年度シラバス

科 目 名		理系のための基礎英語Ⅱ				
配 当 学 年		1 年	必修・選択	選択必修	C A P 制	対象
授 業 の 種 類		講義	単 位 数	2 単 位	授業回数	15
授 業 担 当 者		Randy L. Evans		単位認定責任者	Randy L. Evans	
実務経験の有無						
実務経験のある教員名および授業の関連内容						
授 業 科 目 の 概 要		Students will learn basic vocabulary used in the physical sciences, focusing on waves and light. This vocabulary is learned by American children in middle school. Course content focuses on completing science-based tasks in English. 基本的な理科の単語を学ぶ。この単語はアメリカ人の子供たちが中学校で学ぶ単語です。この科目は波と光にフォーカスします。				
授 業 科 目 の 到 達 目 標		1. 理科関係の英単語を分かることができる。 2. 英語で指示聞いてタスクをすることができる。 3. 理科的な結果を英語で書くことができる。 4. 簡単な文章を読むことができる。 5. 平易な英文を書くことができる。				
学修成果評価項目（%）および評価方法		項目	割合	評価方法		
		基礎学力	50 %	定期試験		
		専門知識	%			
		倫理観	%			
		主体性	%			
		論理性	%			
		国際感覚	%			
		協調性	50 %	ワークシート		
		創造力	%			
		責任感	%			
授業の展開						
1.	Introduction イン트로ダクション					
2.	Principles of Physical Science 基本的な理科単語					
3.	Mechanical Waves -- Kinds of Waves 力学的な波 -- 波の種類					
4.	Parts of a Wave 波の要素					
5.	Reflection & Diffraction 反射と回折					
6.	Electromagnetic Waves 電磁波					
7.	Visible Spectrum 可視スペクトル					
8.	Transmission 伝搬					
9.	Reflection of Light 光の反射					
10.	Color Absorption 光の吸収					
11.	Scattering 散乱					
12.	Convex & Concave Mirrors 凸面鏡と凹面鏡					
13.	Refraction 屈折					
14.	Review レビュー					
15.	Review レビュー					

2023年度シラバス

授 業 外 学 修 に つ い て	Every lesson has a corresponding eLearning lesson. The eLearning lessons are required, but each student may choose to do them after or before the lectures. 各レッスンに eLearning 教材がついている。eLearning の課題課題は必須。 学生は講義の前か後のどちらかで取り組まなければならない。				
教 科 書	適宜プリントを配付・使用する				
参 考 文 献	なし				
試 験 等 の 実 施	定期試験	その他の テスト	課題・ レポート	発表・プレゼンテ ーション	取組状況等
	○	○	×	×	○
成績評価の割合	60 %	20 %	0 %	0 %	20 %
成績評価の基準	本学の評価基準に基づき、成績評価を行う。 秀（100～90点）、優（89～80点）、良（79～70点）、可（69点～60点）、不可（59点～0点）				
試験等の実施、成績評価の基準に関する補足事項					

（理系のための基礎英語Ⅱ）

科 目 名	英語リーディングⅡ				
配 当 学 年	1 年	必修・選択	選択必修	C A P 制	対象
授 業 の 種 類	講義	単 位 数	2 単 位	授業回数	15
授 業 担 当 者	磯部 靖世		単位認定責任者	磯部 靖世	
実務経験の有無					
実務経験のある教員名および授業の関連内容					
授業科目の概要	読解力を身につけるため、幅広いテーマの英文を用いた読解を行い、それに関連した表現や語彙の学習を進め、語彙力を高める。本授業では「Reading」だけを扱うのではなく、英語の他の技能（スピーキング、ライティング、リスニング）の能力も併せて強化する。特に、読んだものや見たものを自分のことばでアウトプットすることに重点をおく。また、目的に応じた文章の種類や構造の違いを学び、新出語彙・イディオムや基本的な文法の確認を行う。文章を構成する各パラグラフの関係を把握し全体の主旨を読み解いていくための基本的なリーディング・スキルを習得する。タイミングが合えば、海外の大学と交流を持ち、英語を実用的に用いて、その能力の向上を目指す。				
授 業 科 目 の 到 達 目 標	1. 英語のパラグラフの書き方を理解し、理論的なトピックセンテンスを書くことができる。 2. 授業で取り扱うReadingの内容について、自分の意見を英語で書いたり（250語程度）、話したりすることができる（2分程度）。 3. 授業で取り扱うReadingの内容について、自分のことばでまとめることができる。 4. リーディングに必要なスキルを学習し、長文読解に活用することができる。 5. より多くの語彙を習得し、それらを実用的に使うことができる。				
学修成果評価項目（％）および評価方法	項目	割合	評価方法		
	基礎学力	35 %	その他テスト、レポート等、プレゼンテーション		
	専門知識	%			
	倫理観	%			
	主体性	10 %	レポート等		
	論理性	25 %	その他テスト、プレゼンテーション		
	国際感覚	10 %	レポート等		
	協調性	%			
	創造力	10 %	レポート、プレゼンテーション		
責任感	10 %	取組状況等			
授業の展開					
1.	授業オリエンテーション、英語の書き方について				
2.	Unit 2 Business and Finance: Lesson 1 Tulip mania and bubble economies 金融・経済に関する語彙学習、スキミングを使ってパッセージを理解する				
3.	Lesson 3 Fast Fashion ファッションに関する語彙学習とスキミング				
4.	Unit 3 Society: Lesson 3 How does social media affect the way we communicate? ソーシャルメディアとコミュニケーションに関する語彙学習、ノートテイキングについて				
5.	Unit 5 Human Beings: Lesson 1 Languages and language diversity 言語と学習についての語彙学習、スキニングを使って読解をする練習				
6.	Lesson 2 A good sign 手話についての語彙学習とスキニング				
7.	Lesson 3 Left-handedness 学習と脳についての語彙学習、接続詞について				
8.	Preparation for Midterm exam				
9.	Unit 7 Science: Lesson 1 Surviving earthquakes 地質学と災害についての語彙学習				
10.	Unit 2 You're one in a million テクノロジーについての語彙とサマリーの練習				

11.	Unit 3 Photovoltaic cells: Energy source of the future 科学と環境の語彙				
12.	Unit 8 Medicine and Health: Lesson 1 Sleep and dreams 睡眠と健康についての語彙				
13.	Lesson 2 Antibiotic resistance 薬剤と病気に関する語彙学習と関係詞について				
14.	Lesson 3 Is milk good for us? 牛乳と健康についての語彙学習				
15.	Preparation for Final exam				
授 業 外 学 修 に つ い て	授業外の予習・復習として、以下の内容取り組むこと。(予習 60分)				
	・教科書の内容に事前に目を通し、新出語彙・イディオムの意味・用法を予習し、事前に提示される教科書の設問に答えておく。(復習 40分) ・テキストの本文の内容、語彙・イディオムを中心に復習をする。 ・授業の内容を踏まえ、教科書の読み物について自分の考えをまとめておく。 ・単語学習には Quizlet を使用するため、各自授業時間外にアプリをダウンロードしておくこと(使い方などは授業内で説明)				
教 科 書	Reading and Vocabulary Development 3 (fourth edition) Patricia Ackert, Linda Lee, Harry Haynes, and Stefan Kostrelis (Cengage Learning)				
参 考 文 献	特になし				
試 験 等 の 実 施	定期試験	その他の テスト	課題・ レポート	発表・プレゼンテ ーション	取組状況等
	×	○	○	○	○
成績評価の割合	0 %	30 %	30 %	30 %	10 %
成績評価の基準	本学の評価基準に基づき、成績評価を行う。 秀(100～90点)、優(89～80点)、良(79～70点)、可(69点～60点)、不可(59点～0点)				
試験等の実施、成績評価の基準に関する補足事項	・授業への出席回数が3分の2未満の場合には不合格となる。 ・課題は提出期限を過ぎたものや翻訳ツールを使った課題は評価対象外となる。 ・他の学生の課題や文献などをコピーをした場合は「不合格」となる。 ・授業中の居眠りやスマホいじりなどは「欠席扱い」となる。 ・授業の進度や内容などは、状況により変更の可能性がある。				

(英語リーディングⅡ)

科 目 名	英語基礎Ⅱ				
配 当 学 年	1 年	必修・選択	選択必修	C A P 制	対象
授 業 の 種 類	講義	単 位 数	2 単 位	授業回数	15
授 業 担 当 者	小川 正浩		単位認定責任者	小川 正浩	
実務経験の有無					
実務経験のある教員名および授業の関連内容					
授 業 科 目 の 概 要	この授業では「英語基礎Ⅰ」に引き続き、英語の基礎力を身につけることに主眼を置く。春学期で学習した短文単位の英文解釈の練習による英文構造の把握からパラグラフ単位の英文解釈の演習問題を行うことで、より高度な英文構造の分析と理解の向上に努める。また春学期同様、文法・語彙・音声の教材を用いながら、総合的な英語運用能力修得のための基礎となる語彙力、基礎文法力・構文力、読解力、聴解力のさらなる向上を目指す。				
授 業 科 目 の 到 達 目 標	1 パラグラフ単位の英文を読んでいくため前後の英文の関係性にも注意を払いながら、一文一文をを正確に解釈していく訓練を積むことができる。 2 演習問題に採用する英文は多彩なジャンルから取り上げているため、実用的な英文に慣れると同時に教養的な知識も身につけることができる。 3 副教材から、TOEIC のリスニングの演習問題を通して、TOEIC の形式に慣れると共に聴解力の向上を図ることができる。 4 副教材から、理工系学生のための必修英単語2600語を習得できる。 5 多読によって簡単な物語や身近なことに関する英文を和訳せずに早く読むことができる（直読直解）。				
学修成果評価項目（％）および評価方法	項目	割合	評価方法		
	基礎学力	60% %	期末テスト、小テスト		
	専門知識	%			
	倫理観	%			
	主体性	30% %	課題提出（多読・リスニング・文法）、語彙小テストの準備		
	論理性	10% %	演習問題（英文解釈）		
	国際感覚	%			
	協調性	%			
	創造力	%			
	責任感	%			
授業の展開					
1.	ガイダンス（授業の進め方など）				
2.	演習問題、多読シート・リスニング・文法課題提出、語彙小テスト				
3.	演習問題、多読シート・リスニング・文法課題提出、語彙小テスト				
4.	演習問題、多読シート・リスニング・文法課題提出、語彙小テスト				
5.	演習問題、多読シート・リスニング・文法課題提出、語彙小テスト				
6.	演習問題、多読シート・リスニング・文法課題提出、語彙小テスト				
7.	演習問題、多読シート・リスニング・文法課題提出、語彙小テスト				
8.	演習問題、多読シート・リスニング・文法課題提出、語彙小テスト				
9.	演習問題、多読シート・リスニング・文法課題提出、語彙小テスト				
10.	演習問題、多読シート・リスニング・文法課題提出、語彙小テスト				
11.	演習問題、多読シート・リスニング・文法課題提出、語彙小テスト				
12.	演習問題、多読シート・リスニング・文法課題提出、語彙小テスト				

13.	演習問題、多読シート・リスニング・文法課題提出、語彙小テスト				
14.	演習問題、多読シート・リスニング・文法課題提出、語彙小テスト				
15.	まとめ				
授 業 外 学 修 に つ い て	授業外学習は、以下の項目に毎週少なくとも4時間程度あてることが望ましい。 1 語彙テキストの予習（小テストの準備） 2 リスニング・文法テキストの予習（課題提出） 3 多読の課題（1週間に2500語以上読んで多読シートを提出）				
教 科 書	春学期と同じ。 秋学期から履修する学生は、売店では販売していないので、各自個別に注文することに注意してください。				
参 考 文 献	特になし。				
試 験 等 の 実 施	定期試験	その他の テスト	課題・ レポート	発表・プレゼンテ ーション	取組状況等
	○	○	○	×	○
成績評価の割合	50 %	10 %	30 %	0 %	10 %
成績評価の基準	本学の評価基準に基づき、成績評価を行う。 秀（100～90点）、優（89～80点）、良（79～70点）、可（69点～60点）、不可（59点～0点）				
試験等の実施、成績評価の基準に関する補足事項	・評価や授業の進め方、辞書の携帯等に関してはガイダンス時に詳細に説明するので、履修希望者は必ず出席すること。 ・授業は、「対面授業」のスタイルで行う。実際の授業にあたって上記の授業内容に変更が生じる場合があるかもしれないことを予めご了承ください。変更が生じる場合は、ガイダンス時または授業中に連絡する。				

2023年度シラバス

科 目 名		アメリカ事情 I				
配 当 学 年		2 年	必修・選択	選択必修	C A P 制	対象
授 業 の 種 類		講義	単 位 数	2 単 位	授業回数	15
授 業 担 当 者		Randy L. Evans		単位認定責任者	EVANS RANDY LYNN	
実務経験の有無		無				
実務経験のある教員名および授業の関連内容						
授業科目の概要		THIS IS AN ALL ENGLISH CLASS. Students are expected to speak to me, and to each other, ONLY in English during class. Class content will consist a number of English “Modules” concerning a variety of topics. ALL students will be expected to SPEAK in English, READ English, WATCH video in English, LISTEN to English music, ROLE-PLAY in English, and SING in English!!				
授 業 科 目 の 到 達 目 標		1. Students will be able to use new vocabulary. 2. Students will be able to read English passages. 3. Students will be able to understand spoken English. 4. Students will be able to understand US culture. 5. Students will be able to discuss a variety of topics.				
学修成果評価項目（%）および評価方法		項目	割合	評価方法		
		基礎学力	6 %	定期試験、小テスト（クイズ）		
		専門知識	%			
		倫理観	%			
		主体性	%			
		論理性	%			
		国際感覚	20 %	ワークシート、小テスト（クイズ）		
		協調性	20 %	ワークシート		
		創造力	%			
		責任感	%			
授業の展開						
1.	Course Introduction					
2.	Reading Passage					
3.	Reading Passage & Quiz					
4.	Reading Passage & Quiz					
5.	Reading Passage & Quiz					
6.	Reading Passage & Quiz					
7.	Reading Passage & Quiz					
8.	Listening & Video					
9.	Reading Passage & Quiz					
10.	Listening & Video					
11.	Reading Passage & Quiz					
12.	Listening & Video					
13.	Reading Passage & Quiz					
14.	Listening Quiz					
15.	Reading Quiz					

2023年度シラバス

授 業 外 学 修 に つ い て	Students will receive various handouts that should be perused before lecture. Particularly the reading passages should be read before coming to lecture. 学生がいろいろなプリントをもらいます。このプリントを講座前にみてください。 特に読書のプリントを読んでください。				
教 科 書	Handouts				
参 考 文 献	使用しない				
試 験 等 の 実 施	定期試験	その他の テスト	課題・ レポート	発表・プレゼンテ ーション	取組状況等
	○	○	×	×	×
成績評価の割合	60 %	40 %	0 %	0 %	0 %
成績評価の基準	本学の評価基準に基づき、成績評価を行う。 秀（100～90点）、優（89～80点）、良（79～70点）、可（69点～60点）、不可（59点～0点）				
試験等の実施、成績評価の基準に関する補足事項					

（アメリカ事情Ⅰ）

科 目 名	TOEIC I				
配 当 学 年	2 年	必修・選択	選択必修	CAP制	対象
授 業 の 種 類	講義	単 位 数	2 単 位	授業回数	15
授 業 担 当 者	礒部 靖世		単位認定責任者	礒部 靖世	
実務経験の有無	無				
実務経験のある教員名および授業の関連内容					
授 業 科 目 の 概 要	本授業は、TOEICでの高得点を保証する授業ではなく、また、TOEICテスト対策のみに特化した授業ではない。本授業では中級者向けTOEIC対策教材を用い受験に向けた演習を行うが、それと同時にテストを受験するためのスキルだけではなく、リスニングの練習問題を用いてスピーキングの練習にも取り組む。TOEIC対策に関しては、リスニング問題の形式・主題、リーディング問題の形式・文章の種類・主題、頻出の文法項目や語彙・イディオムを確認し、繰り返し練習する。				
授 業 科 目 の 到 達 目 標	1. TOEICテストに出題される多様な英単語の意味をさまざまな文脈で理解し、説明することができる。 2. TOEICテストに出題される英文法のさまざまな用法を理解し、的確に使うことができる。 3. TOEICテストのリスニング・パートにおける問題構成を把握し、基本的な問題について戦略的に解答することができる。 4. TOEICテストのリーディング・パートにおける問題構成を把握し、基本的な問題について戦略的に解答することができる。 5. TOEICテストの出題傾向、頻出のテーマを把握し、高得点に活かすことができる。				
学修成果評価項目（%）および評価方法	項目	割合	評価方法		
	基礎学力	35 %	定期試験、その他テスト		
	専門知識	%			
	倫理観	%			
	主体性	35 %	定期試験、その他テスト		
	論理性	%			
	国際感覚	%			
	協調性	%			
	創造力	20 %	課題		
責任感	10 %	取組状況等			
授業の展開					
1.	授業と TOEIC についての説明（テストの形式など）				
2.	Unit 1 Travel 旅行に関する語句や表現を覚える。名詞についての知識を深める。				
3.	Unit2 Dining Out レストランや食事・料理に関する語句や表現を覚える、形容詞について学ぶ。				
4.	Unit 3 Media メディアに関する語句や表現を覚える。副詞についての知識を深める。				
5.	Unit 4 Entertainment エンターテインメントに関する語句や表現を覚える。時制の復習。				
6.	Unit 5 Purchasing 愛ものに関する語句や表現を覚える。主語と動詞の一致についての復習。				
7.	Unit 6 Clients 顧客との取引・ビジネスに関する語彙や表現を学ぶ。また感情を表す表現の知識を深める。				
8.	Unit 7 Recruiting 求人や採用に関する語句・表現を学ぶ。動名詞や不定詞の復習。				
9.	Unit 8 Personnel 人事に関する語句や表現を学ぶ。現在/過去分詞の復習。				
10.	Unit 9 Advertising 宣伝や広告についての語彙や表現を学ぶ。代名詞についての知識を深める。				
11.	Unit 10 Meetings 会議に関する語句や表現を覚える。比較について学ぶ。				
12.	Unit 11 Finance 予算や費用に関する語句や表現を学ぶ。前置詞に関しての知識を深める。				
13.	Unit 12 Offices オフィスに関する語句や表現を覚える。接続詞について知識を深める。				
14.	Unit 13 Daily Life 日常生活に関する語句や表現を学ぶ。前置詞と接続詞の違いについて理解をする。				

15.	まとめとテスト				
授 業 外 学 修 に つ い て	授業外の予習・復習として、以下の内容取り組むこと。 ・教科書の設問にはすべて回答をしてから授業に参加すること。(予習 60 分) ・授業後には、テキストの練習問題の授業で扱わなかった箇所の確認し、文法や語彙を中心に復習すること。(復習 40 分)				
教 科 書	Score Booster for the TOEIC L&R Test: Intermediate レベル別 TOEIC L&R テスト実力養成コース： 中級編 番場直之 / 小山克明 著 早川幸治 / 番場直之 シリーズ監修 (金星堂)				
参 考 文 献	特になし				
試 験 等 の 実 施	定期試験	その他の テスト	課題・ レポート	発表・プレゼンテ ーション	取組状況等
	○	○	×	×	○
成績評価の割合	20 %	35 %	35 %	0 %	10 %
成績評価の基準	本学の評価基準に基づき、成績評価を行う。 秀 (100～90点)、優 (89～80点)、良 (79～70点)、可 (69点～60点)、不可 (59点～0点)				
試験等の実施、成績評価の基準に関する補足事項	・授業への出席回数が3分の2未満の場合には不合格となる。 ・授業中の居眠りやスマホいじりなどは「欠席扱い」となる。 ・授業の進度や内容などは、状況により変更の可能性がある				

(TOEIC I)

科 目 名		英語と文化 I				
配 当 学 年		2 年	必修・選択	選択必修	C A P 制	対象
授 業 の 種 類		講義	単 位 数	2 単 位	授業回数	15
授 業 担 当 者		小川 正浩		単位認定責任者	小川 正浩	
実務経験の有無		無				
実務経験のある教員名および授業の関連内容						
授 業 科 目 の 概 要		この授業では、世界の文化を歴史的にとらえ、思想や芸術の幅広い教養を身につけると同時に異質なものの、多様なものを理解し、受容することができるようになることを目指す。具体的には、映画文化史の英文（大学中級レベル）を精読しながら、映画を芸術史としてのみとらえるのではなく、政治・社会・経済・技術史という大きな文脈の中で考えていく視点を養っていく。				
授 業 科 目 の 到 達 目 標		1. 外国の芸術文化を理解し、多様性を認める寛容力を持つことができる。 2. 映画を歴史的に見ることで映像文化を批判的にとらえることができる。 3. 授業で精読する英文に関連する配布資料（用語集）によって映画に関する基本的な専門用語を習得できる。 4. 英語文献を正確に読解し、関連する映像を観たうえで自分の考えや意見を発信できる（リアクションペーパーの作成）。 5. 多読によって英語の物語や説明文を和訳せずに速く読むことができる（直読直解）。				
学修成果評価項目（%）および評価方法		項目	割合	評価方法		
		基礎学力	60 %	定期試験		
		専門知識	%			
		倫理観	%			
		主体性	20 %	課題提出（多読）、テキストの予習		
		論理性	10 %	リアクションペーパーの作成		
		国際感覚	10 %	外国文化の理解・受容		
		協調性	%			
		創造力	%			
		責任感	%			
授業の展開						
1.	ガイダンス（授業の進め方など）					
2.	テキスト、pp. 4-13、課題提出（多読）、					
3.	テキスト、pp. 14-15、課題提出（多読）、リアクションペーパー提出					
4.	テキスト、pp. 16-18、課題提出（多読）、リアクションペーパー提出					
5.	テキスト、pp. 18-21、課題提出（多読）、リアクションペーパー提出					
6.	テキスト、pp. 22-26、課題提出（多読）、リアクションペーパー提出					
7.	テキスト、pp. 26-27、課題提出（多読）、リアクションペーパー提出					
8.	テキスト、pp. 29-31、課題提出（多読）、リアクションペーパー提出					
9.	テキスト、pp. 32-35、課題提出（多読）、リアクションペーパー提出					
10.	テキスト、pp. 36-37、課題提出（多読）、リアクションペーパー提出					
11.	テキスト、pp. 38-41、課題提出（多読）、リアクションペーパー提出					
12.	テキスト、pp. 42-45、課題提出（多読）、リアクションペーパー提出					
13.	テキスト、pp. 46-51、課題提出（多読）、リアクションペーパー提出					
14.	テキスト、pp. 52-61、課題提出（多読）、リアクションペーパー提出					
15.	まとめ					

授 業 外 学 修 に つ い て	授業外学習は、以下の項目に少なくとも4時間程度あてることが望ましい。 1. テキストの英文の予習（日本語訳作成） 2. リアクションペーパーの作成 3. 多読の課題（週に3000語以上）				
教 科 書	クリストファー・ケンワージー他『楽しい映画文化史』（成美堂）				
参 考 文 献	特になし。				
試 験 等 の 実 施	定期試験	その他の テスト	課題・ レポート	発表・プレゼンテ ーション	取組状況等
	○	×	○	×	○
成績評価の割合	60 %	0 %	20 %	0 %	20 %
成績評価の基準	本学の評価基準に基づき、成績評価を行う。 秀（100～90点）、優（89～80点）、良（79～70点）、可（69点～60点）、不可（59点～0点）				
試験等の実施、成績評価の基準に関する補足事項	・評価や授業の進め方、辞書の携帯等に関しては、ガイダンス時に詳細に説明するので、履修希望者は必ず出席すること。 ・授業は「対面授業」のスタイルで行う。また、実際の授業にあたって上記の授業内容に変更が生じる場合があるかもしれないことを予めご了承下さい。変更があれば、ガイダンス時または授業時に連絡する。 ・受講対象者は、希望調査においてこの授業を「第1希望」とした者のみとする。				

（英語と文化Ⅰ）

科 目 名	フランス語				
配 当 学 年	2 年	必修・選択	選択必修	C A P 制	対象
授 業 の 種 類	講義	単 位 数	2 単 位	授業回数	30
授 業 担 当 者	高野 真理子（非常勤講師）		単位認定責任者	高野 真理子	
実務経験の有無	無				
実務経験のある教員名および授業の関連内容	-				
授 業 科 目 の 概 要	本授業では、話す、聞く、書く、読むという四技能をバランス良く学ぶことによって、フランス語の総合的な入門学習を目指します。日常生活や旅行における平易な表現から始めてフランス語の基礎力を養い、発音・会話練習や練習問題を通じてそれらを応用する力を伸ばしていきます。 この点で、フランス語の実用能力を客観的に証明する実用フランス語検定試験（仏検）5級程度の語学力を目指す学習といえます。 また、言語を学ぶことは、それを使う人と国を知ることでもあります。この授業では芸術やグルメなど、フランスの文化や社会、歴史も紹介していきます。それらに親しむことによってヨーロッパへの理解を深め、広い視野を養うことも大切と言えるでしょう。				
授 業 科 目 の 到 達 目 標	１． フランス語の音と綴り字の関係を理解することで、単語や短い文章を正確に発音することができる。 ２． 文法を理解し、単語や動詞の活用を暗記することで、挨拶、簡単な自己紹介や趣味についてフランス語で表現・作文することができる。 ３． 短いフランス語の文章を聞いて意味を理解し、また相手に質問することができる。 ４． 総合的な学習の成果として、実用フランス語検定5級程度の4技能（聞く、話す、読む、書く）を習得できる。 ５． フランス語の音の美しさ、文法の面白さ、ヨーロッパの豊かな文化に触れ、理解することによって、広い視野を養い、独自の意見を持って議論に参加できる。				
学修成果評価項目（％）および評価方法	項目	割合	評価方法		
	基礎学力	70 %	口頭発表、定期試験		
	専門知識	%			
	倫理観	%			
	主体性	10 %	授業態度、口頭発表、課題		
	論理性	%			
	国際感覚	10 %	口頭発表、定期試験		
	協調性	%			
	創造力	%			
	責任感	10 %	口頭発表、定期試験		
授業の展開					
1.	ガイダンス：授業の進め方、評価についてなど 第1課 出会い（1）：アルファベット、挨拶、être 動詞				
2.	第1課 出会い（1）：第一群規則動詞、名詞の性・数、疑問文型				
3.	第2課 出会い（2）：出身地、職業の表現、前置詞 en, à, à と定冠詞の縮約				
4.	第2課 出会い（2）：所有形容詞、疑問形容詞、人称代名詞強勢形、数字				
5.	第3課 紹介する：否定文、単純倒置形・複合倒置形				
6.	第3課 紹介する：前置詞 de と定冠詞の縮約				
7.	第4課 専攻と余暇：科目・趣味の語彙、部分冠詞				
8.	第4課 専攻と余暇：好き嫌いの表現、中性代名詞 en, y				

9.	第5課 家族：家族の語彙、指示表現、否定の de、形容詞				
10.	第5課 家族：形容詞の女性形、男性第2形を持つ形容詞、口頭発表①				
11.	第6課 持ち物：持ち物の語彙、物の名前を尋ねる、口頭発表②				
12.	第6課 持ち物：所有を表す表現、口頭発表③				
13.	第10課 食品：朝食のメニュー、好きな食べ物、口頭発表④				
14.	第10課 食品：カフェでの注文、口頭発表⑤				
15.	まとめ：口頭発表（予備日）、試験対策				
授 業 外 学 修 に つ い て	・教科書、配布するプリント、課題等で必ず予習・復習をすること。その際には、各回とも前回の授業の学習内容、とりわけ動詞の活用や重要単語は暗記して授業に臨むこと。テキストを読み、初出の単語は調べ、質問事項をまとめておくなど、言語学習は毎日少しでもこつこつ行うのが望ましい。 ・教科書付属の音声ダウンロードし、各自発音の確認・練習を行うことが望ましい。 ・出される課題もしくは教科書付属のワークブックには必ず取り組み、課題は提出期限までに提出すること（提出形式は、授業形態に応じてメールやポータルで行う）。やむを得ない場合で提出が遅れた場合も極力提出することが望ましい。採点結果が極めて不十分な場合には、再提出を求める場合があるので注意すること。 ・テーマや各課の区切りで小テスト（動詞の活用など）を行うことがある。事前に通知するのでしっかり準備をすること。				
教 科 書	高橋百代 他著『場面で学ぶフランス語 I（三訂版）』、三修社、2019 補助のプリントも配布予定				
参 考 文 献	仏和辞典を一冊購入することを推奨する。 辞典についての詳細は、ガイダンス時に紹介する。				
試 験 等 の 実 施	定期試験	その他の テスト	課題・ レポート	発表・プレゼンテ ーション	取組状況等
	○	×	○	○	○
成績評価の割合	50 %	0 %	15 %	20 %	15 %
成績評価の基準	本学の評価基準に基づき、成績評価を行う。 秀（100～90点）、優（89～80点）、良（79～70点）、可（69点～60点）、不可（59点～0点）				
試験等の実施、成績評価の基準に関する補足事項	・授業への積極的な参加態度、小テスト、課題の提出、口頭発表、定期試験などにより総合的に評価する。 ・出席は非常に重要。欠席が規定時間数の3分の1を越えれば期末試験の受験資格を失う。毎回出席することに加え、積極的に声をだし発音すること、会話練習や口頭発表、宿題などに主体的に取り組む姿勢を評価する。 ・遅刻は厳禁。3回の遅刻で1回の欠席にカウントする。 ・定期試験は、教科書、ワークブック、課題プリントなどからも出題される。課題や小テスト、ワークブックは取り組み後、ノートにまとめるなどして復習することが望ましい。再試験は行わないので注意すること。 ・課題は翌週の授業までに採点し返却する。解説はポータルへの掲載、プリント配布、あるいは授業内で全員に共有など、必要に応じて行う予定。				

（フランス語）

2023年度シラバス

科 目 名	アメリカ事情Ⅱ				
配 当 学 年	2 年	必修・選択	選択必修	C A P 制	対象
授 業 の 種 類	講義	単 位 数	2 単 位	授業回数	15
授 業 担 当 者	Randy L. Evans		単位認定責任者	EVANS RANDY LYNN	
実務経験の有無	無				
実務経験のある教員名および授業の関連内容					
授業科目の概要	THIS IS AN ALL ENGLISH CLASS. Students are expected to speak to me, and to each other, ONLY in English during class. Class content will consist a number of advanced English “Modules” concerning a variety of topics. ALL students will be expected to SPEAK in English, READ English, WATCH video in English, LISTEN to English music, ROLE-PLAY in English, and SING in English!!				
授業科目の到達目標	1. Students will be able to use new vocabulary. 2. Students will be able to read English passages. 3. Students will be able to understand spoken English. 4. Students will be able to understand US culture. 5. Students will be able to discuss a variety of topics.				
学修成果評価項目（%）および評価方法	項目	割合	評価方法		
	基礎学力	60 %	定期試験、小テスト（クイズ）		
	専門知識	%			
	倫理観	%			
	主体性	%			
	論理性	%			
	国際感覚	20 %	ワークシート、小テスト（クイズ）		
	協調性	20 %	ワークシート		
	創造力	%			
責任感	%				
授業の展開					
1.	Course Introduction				
2.	Interactive Game Introduction				
3.	Reading Passage				
4.	Interactive Game				
5.	Reading Passage				
6.	Interactive Game				
7.	Reading Quiz				
8.	Listening & Video				
9.	Reading Passage				
10.	Listening & Video				
11.	Reading Passage				
12.	Listening & Video				
13.	Reading Passage				
14.	Listening Quiz				
15.	Reading Quiz				

2023年度シラバス

授 業 外 学 修 に つ い て	Students will receive various handouts that should be perused before lecture. Particularly the reading passages should be read before coming to lecture. 学生がいろいろなプリントをもらいます。このプリントを講座前にみてください。特に読書のプリントを読んでください。				
教 科 書	Handouts				
参 考 文 献	使用しない				
試 験 等 の 実 施	定期試験	その他の テスト	課題・ レポート	発表・プレゼンテ ーション	取組状況等
	○	○	×	×	×
成績評価の割合	60 %	40 %	0 %	0 %	0 %
成績評価の基準	本学の評価基準に基づき、成績評価を行う。 秀（100～90点）、優（89～80点）、良（79～70点）、可（69点～60点）、不可（59点～0点）				
試験等の実施、成績評価の基準に関する補足事項					

（アメリカ事情Ⅱ）

科 目 名	TOEIC II				
配 当 学 年	2 年	必修・選択	選択必修	CAP制	対象
授 業 の 種 類	講義	単 位 数	2 単 位	授業回数	15
授 業 担 当 者	磯部 靖世		単位認定責任者	磯部 靖世	
実務経験の有無					
実務経験のある教員名および授業の関連内容					
授 業 科 目 の 概 要	まず、本授業はTOEICでの高得点を保証する授業ではなく、また、TOEICテスト対策のみに特化した授業ではない。英語を実用的・実践的に使うためには、TOEICテストで問われるような限られたスキル以外が不可欠であるため、本授業では、TOEICテスト用の教科書を使用し、スピーキング、リスニング、文法、語彙、リーディングのスキルの向上を目指す。授業では、実際のTOEICテストに類似した形式の設問を扱い、リスニング、スピーキング、リーディングの練習を取り入れる。語彙に関しては、受講生が自主的に勉強することが求められる。また、授業では教科書内にあるリスニングやリーディングの設問に関するグループ発表を実施し、受講生が主体的に学修することを目指す。また、タイミングが合えば、海外の大学と交流をし、実践的にスピーキングやリスニング力を強化する。				
授 業 科 目 の 到 達 目 標	1. テレビやインターネット、広告や留守番電話など、さまざまな媒体で用いられる英語のスピードや慣用表現に慣れる。 2. 理論的に説明の解答を導くことができる。 3. 複数の英語のパッセージの内容を限られた時間の中で読解することができる。 4. 未修の語彙があっても、文脈などで意味を補足することができる。 5. シャドーイングなどの課題を通して、英語のリスニング力とスピーキング力を向上し、より自然なスピードの会話を聞いたり、話したりすることができる。				
学修成果評価項目（％）および評価方法	項目	割合	評価方法		
	基礎学力	40 %	プレゼンテーション・定期試験・その他テスト・課題		
	専門知識	%			
	倫理観	%			
	主体性	20 %	課題		
	論理性	%			
	国際感覚	10 %	課題		
	協調性	10 %	プレゼンテーション		
	創造力	10 %	課題		
責任感	10 %	課題・プレゼンテーション・取組状況等			
授業の展開					
1.	授業オリエンテーションと Unit 1 Dining out 前置詞について				
2.	Unit 2 Offices 形容詞について				
3.	Unit 3 General Business 接続詞について				
4.	Unit 4 Manufacturing 接続詞について 2				
5.	Unit 5 Communication 分詞構文について				
6.	Unit 6 Health 倒置について				
7.	Unit 7 Fiance and Budgeting 受動態について				
8.	Unit 8 Entertainment 比較について				
9.	Unit 9 Purchasing 不定詞について				
10.	Unit 10 Corporate Development 副詞について				
11.	Unit 11 Technical Areas 関係詞について				

12.	Unit 12 Travel 複合関係詞について				
13.	Unit 13 Housing/Corporate Property 過去完了について				
14.	Unit 14 Personnel 使役について				
15.	まとめと確認テスト				
授 業 外 学 修 に つ い て	授業外の予習・復習として、以下の内容取り組むこと。 ・教科書の設問には事前に解答をして、授業へのぞむこと（予習 60 分） ・授業で扱った内容や語彙・表現を復習しておくこと（復習 40 分）。なお、2 回目以降は毎回クイズを実施するため、復習が必須となる。				
教 科 書	TOEIC® L&R TEST への総合アプローチ -Advanced- Best Practice for the TOEIC L&R Test -Advanced- 吉塚弘・Graham Skerritt 著（成美堂）				
参 考 文 献					
試 験 等 の 実 施	定期試験	その他の テスト	課題・ レポート	発表・プレゼンテ ーション	取組状況等
	○	○	○	○	○
成績評価の割合	15 %	35 %	35 %	10 %	5 %
成績評価の基準	本学の評価基準に基づき、成績評価を行う。 秀（100～90点）、優（89～80点）、良（79～70点）、可（69点～60点）、不可（59点～0点）				
試験等の実施、成績評価の基準に関する補足事項	・授業への出席回数が3分の2未満の場合には不合格となる。 ・授業中の居眠りやスマホいじりなどは、「欠席扱い」となる。 ・授業の進捗や内容などは、状況により変更の可能性がある。 ・期日を過ぎた課題・HWは、評価対象外となる。また、本授業では、追試・再試は実施しない。ただし、何か特別な理由がある場合は、必ず連絡をすること。				

科 目 名	英語と文化Ⅱ				
配 当 学 年	2 年	必修・選択	選択必修	C A P 制	対象
授 業 の 種 類	講義	単 位 数	2 単 位	授業回数	15
授 業 担 当 者	小川 正浩		単位認定責任者	小川 正浩	
実務経験の有無	無				
実務経験のある教員名および授業の関連内容					
授業科目の概要	この授業では、「英語と文化Ⅰ」同様、世界の文化を歴史的にとらえ、思想や芸術の幅広い教養を身につけると同時に異質なものの、多様なものを理解し、受容することができるようになることを目指す。具体的には、ゴシック文学の古典である「ドラキュラ」と今やアメリカ都市伝説の古典と化した「消えたヒッチハイカー」（大学中級レベルから上級レベル）を精読しながら、両作品に隠された様々な問題を歴史的・社会的・文化的文脈から批判的に読み解いていく視点を養っていく。				
授 業 科 目 の 到 達 目 標	1. 外国の芸術文化を理解し、多様性を認める寛容力を持つことができる。 2. 授業中に取り上げる英文を精読することで批判的に分析する思考力を身につけることができる。 3. 「ドラキュラ」に関連する資料」を通して「ドラキュラ」の歴史的・社会的・文化的背景を知ることができる。 4. 「消えたヒッチハイカー」に所収された3つのアメリカの都市伝説を読むことでそこに描かれた世界がいわばその社会に共通した不安や恐怖を照らし出していることに気づくと同時にそれらが現代アメリカ人の意識下に横たわる暗闇を映し出す鏡として働いていることを認識できる。 5. 多読によって英語の物語や説明文を和訳せずに速く読むことができる（直読直解）。				
学修成果評価項目（％）および評価方法	項目	割合	評価方法		
	基礎学力	60％	％	期末テスト	
	専門知識		％		
	倫理観		％		
	主体性	30％	％	課題提出（多読・演習問題・レポート）、テキストの予習（日本語訳作成）	
	論理性		％		
	国際感覚	10％	％	外国文化の理解・受容	
	協調性		％		
	創造力		％		
	責任感		％		
授業の展開					
1.	ガイダンス（授業の進め方など）				
2.	ドラキュラ 1章「ハーカー、トランシルヴァニアへ」 2章「ドラキュラ城に囚われて」、多読提出				
3.	ドラキュラ 3章「伯爵の出立」 4章「死者たちの船」、多読・演習問題提出				
4.	ドラキュラ 5章「ルーシー、侵入口となる」 6章「ルーシー、戦場となる」、多読・演習問題提出				
5.	ドラキュラ 7章「不死者ルーシー」 8章「ヴァンヘルシングの分析と戦略」、多読・演習問題提出				
6.	ドラキュラ 9章「ミナの危機」 10章「ミナ、探知器となる」、多読・演習問題提出				
7.	ドラキュラ 11章「再び、トランシルヴァニアへ」 12章「終焉」、多読・演習問題提出				
8.	レポート作成のための映像視聴「ドラキュラ」（1931）				

9.	The Death Cat ①、多読・演習問題・レポート提出				
10.	The Death Cat ②、多読提出				
11.	The Boyfriend's Death ①、多読提出				
12.	The Boyfriend's Death ②、多読提出				
13.	The Vanishing Hitchhiker ①、多読提出				
14.	The Vanishing Hitchhiker ②、多読提出				
15.	まとめ				
授 業 外 学 修 に つ い て	授業外学習は、以下の事項に毎週少なくとも4時間程度あてることが望ましい。 1. テキスト・プリントの予習（日本語訳作成） 2. テキストの演習問題の課題 3. 多読の課題（週に3000語以上） 4. レポート作成				
教 科 書	細川裕子『ドラキュラ リトルド版』（英宝社） （「消えたヒッチハイカー」等の英文についてはプリントで配布。）				
参 考 文 献	特になし。				
試 験 等 の 実 施	定期試験	その他の テスト	課題・ レポート	発表・プレゼンテ ーション	取組状況等
	○	×	○	×	○
成績評価の割合	60 %	0 %	10 %	0 %	30 %
成績評価の基準	本学の評価基準に基づき、成績評価を行う。 秀（100～90点）、優（89～80点）、良（79～70点）、可（69点～60点）、不可（59点～0点）				
試験等の実施、成績評価の基準に関する補足事項	・評価や授業の進め方、辞書の携帯等に関しては、ガイダンス時において詳細に説明するので、履修希望者は必ず出席すること。 ・授業は「対面授業」のスタイルで行う。また、実際の授業にあたって上記の授業内容に変更が生じる場合があるかもしれないことを予めご了承ください。変更があれば、ガイダンス時または授業中に連絡する。				

科 目 名	ドイツ語				
配 当 学 年	2 年	必修・選択	選択必修	C A P 制	対象
授 業 の 種 類	講義	単 位 数	2 単 位	授業回数	30
授 業 担 当 者	安高 誠吾（非常勤講師）		単位認定責任者	安高 誠吾	
実務経験の有無	無				
実務経験のある教員名および授業の関連内容	-				
授 業 科 目 の 概 要	ヨーロッパの言語の文法を構成している三本柱は、動詞と名詞（代名詞）と語順に関する文法で、中でも動詞の文法（人称変化と動詞が置かれる位置）が最も重要です。授業では動詞の学習に特に力点を置き、不定詞句から指示された文を作る練習をします。英語に比べてドイツ語の文法変化は複雑ですが、細部にとらわれずに、大きくドイツ語という言葉の構造を理解して下さい。				
授 業 科 目 の 到 達 目 標	1. 各課の基本的な会話を覚え、それを応用して基礎的な文章表現ができる。 2. 単語や文章を正確に発音ができる。 3. 基礎単語500語を覚える。 4. 値段や時刻、年月日など数の表現ができる。 5. ドイツという国の社会や文化を知る。				
学修成果評価項目（％）および評価方法	項目	割合	評価方法		
	基礎学力	70 %	中間試験と定期試験によって評価する。		
	専門知識	%			
	倫理観	%			
	主体性	20 %	宿題提出、予習や授業での発表等の取組姿勢で評価する。		
	論理性	%			
	国際感覚	10 %	教材を通してドイツの社会を知る。		
	協調性	%			
	創造力	%			
責任感	%				
授業の展開					
1. 2 .	ガイダンス（ドイツ語はどんな言葉か）、つづりと発音①（Lektion 0） * 末尾の（Lektion 〇）は教科書の課を表す。				
3. 4 .	つづりと発音②、発音練習（数の言い方、挨拶）（Lektion 0）				
5. 6 .	人称代名詞と動詞の現在人称変化（規則変化動詞、sein と haben 動詞の変化、定動詞とその位置）（Lektion 1）				
7. 8 .	名詞の性と格（不定冠詞と定冠詞と格変化）（Lektion 2）				
9. 1 0 .	不規則動詞の人称変化、「はい」と「いいえ」（Lektion 3） 不定詞句から文を作る①（別紙）				
11. 12 .	前置詞、前置詞の格支配（Lektion 4） 不定詞句から文を作る②（別紙）				
13. 14 .	定冠詞類、不定冠詞類、nicht の位置（Lektion 5） 値段と時刻の言い方（別紙）				
15. 16 .	人称代名詞、前置詞と人称代名詞の融合形（Lektion 6）				
17 .	話法の助動詞、未来・推量の助動詞（Lektion 7）				

18.					
19.	複合動詞（分離動詞と非分離動詞）、接続詞（Lektion 8）				
20.					
21.	動詞の3基本形、現在完了形（Lektion 9）				
22.					
23.	過去形、受動態（Lektion 10）				
24.					
25.	再帰代名詞、再帰動詞、zu 不定詞（Lektion 11）				
26.					
27.	形容詞の格変化、比較表現（Lektion 12） 序数による表現（別紙）				
28.					
29.	中級文法への展開（関係文、命令形、接続法など）（Lektion 13、14）				
30.					
授 業 外 学 修 に つ い て	適時宿題を出すので提出すること。語学の学習には復習が効果的であるので、出来るだけその日の内に復習してもらいたい。				
教 科 書	書名：「アイレ・ミット・ヴァイレ」、 著者：櫻井麻美、 発行所：三修社				
参 考 文 献	根本道也 他編『アポロン独和辞典』、同学社				
試 験 等 の 実 施	定期試験	その他の テスト	課題・ レポート	発表・プレゼンテ ーション	取組状況等
	○	×	○	×	○
成 績 評 価 の 割 合	70 %	0 %	10 %	0 %	20 %
成 績 評 価 の 基 準	本学の評価基準に基づき、成績評価を行う。 秀（100～90点）、優（89～80点）、良（79～70点）、可（69点～60点）、不可（59点～0点）				
試験等の実施、成績評価の基準に関する補足事項	○ 開講中に試験は2度行う。 ・ 中間テスト：15回目の授業が終了した段階で行う。（試験範囲は1～15回目の授業で学習した事項） ・ 定期試験：30回目の授業が終了した段階で行う。（試験範囲は16～30回目の授業で学習した事項） ・ 再試験：中間テスト、および定期試験で合格点に達しなかった者に対して実施する。 ○ 適時小テストを行うが、理解度を自己チェックするもので、成績評価には加えない。 ○ 授業開始時に席を決めるので、毎回その席に座ること。				

（ドイツ語）

科 目 名	中国語 1 ②				
配 当 学 年	2 年	必修・選択	選択必修	C A P 制	対象
授 業 の 種 類	講義	単 位 数	2 単 位	授業回数	30
授 業 担 当 者	云 肖梅（非常勤講師）		単位認定責任者	云 肖梅	
実務経験の有無	無				
実務経験のある教員名および授業の関連内容	-				
授 業 科 目 の 概 要	中国は世界の人口の五分の一を占め、世界第二の経済大国に成長したことに伴い、日中間の科学技術、経済、文化などさまざまな分野で交流が深まりつつある。近い将来、その交流に加わるために中国語の修得が不可欠で、その文化を理解するのも大事である。本講義では、中国語の基本として、発音、文字、語彙、構文、会話について、日本語と比べながら、わかりやすく説明し、文法演習を重ね、実用的会話の練習も繰り返すうちに、自然に中国語会話力、作文力をマスターする。また、授業の内容を交えて、映像資料で中国の文化、最新情報も紹介する。				
授 業 科 目 の 到 達 目 標	1. 中国語の表音文字が発音できる。 2. 中国語の基本文法をマスターすることができる。 3. 日常的会話力を習得することができる。 4. 簡単な作文能力を習得することができる。 5. 語学の勉強に伴って、最新中国事情を知り、文化的理解を深める。				
学修成果評価項目（％）および評価方法	項目	割合	評価方法		
	基礎学力	70 %	期末試験、小テスト		
	専門知識	%			
	倫理観	%			
	主体性	10 %	授業参加		
	論理性	%			
	国際感覚	20 %	授業参加		
	協調性	%			
	創造力	%			
責任感	%				
授業の展開					
1.	ガイダンス 中国語概論				
2.	中国語の発音入門				
3.	中国語の発音入門				
4.	第一課 人称代名詞 あなたの名前は何といいますか。				
5.	第二課 指示代名詞 これは何ですか。				
6.	第三課 動詞述語文 あなたは何を食べますか。				
7.	第四課 形容詞述語文 最近はどうですか。				
8.	第五課 名詞述語文 全部でいくらかですか。				
9.	第六課 存在を表す「有」と 所在を表す「在」 病院はどこですか。				
10.	第七課 前置詞 どこで会いましょうか。				
11.	第八課 完了、経験の表現 どのくらい行っていたのですか。				
12.	第九課 助動詞 何を見ているんですか。				
13.	第十課 様態補語 趣味は何ですか。				
14.	第十一課 結果補語 航空券はもう予約しましたか。				
15.	第十二課 方向補語 道中ご無事に				

2023年度シラバス

授 業 外 学 修 に つ い て	1 課ごとに宿題を配布、チェックする。				
教 科 書	云肖梅 森若裕子著 『校园故事 キャンパス物語』 松柏社				
参 考 文 献	適宜指示する。				
試 験 等 の 実 施	定期試験	その他の テスト	課題・ レポート	発表・プレゼンテ ーション	取組状況等
	○	○	○	×	○
成績評価の割合	40 %	20 %	10 %	0 %	30 %
成績評価の基準	本学の評価基準に基づき、成績評価を行う。 秀（100～90点）、優（89～80点）、良（79～70点）、可（69点～60点）、不可（59点～0点）				
試験等の実施、成績評価の基準に関する補足事項	定期試験は持ち込み不可、いままでの合格率は90-95%。				

（中国語 1 ②）

科 目 名	中国語 2				
配 当 学 年	2 年	必修・選択	選択必修	C A P 制	対象
授 業 の 種 類	講義	単 位 数	1 単 位	授業回数	15
授 業 担 当 者	云 肖梅（非常勤講師）		単位認定責任者	云 肖梅	
実務経験の有無	無				
実務経験のある教員名および授業の関連内容	－				
授 業 科 目 の 概 要	「せっかく中国語Ⅰ（初級レベル）を突破したから、もっと通用するまで勉強したい」と考えている人のために 開設する中国語中級クラスである。講義では中国の最新情報を内容とするテキストを使用し、読解を中心に文法、重要語句を文例で分かりやすく説明する上、朗読、翻訳の練習を行い、凄まじく変貌する中国事情の映像、資料などを楽しみながら中国語の実力をアップする。 中国語Ⅲの講義内容は中国語Ⅱの継続で、同一の教科書を使う。				
授 業 科 目 の 到 達 目 標	1. 中国語Ⅰで習った中国語基本文法をベースに一步進んで重要語句などが習得できる。 2. 中国語の問題の解答能力を高める。 3. 辞書を使って一般の中国語の文章が読める。 4. 中国語の勉強に伴って最新の中国情報が取得できる。 5. 今後独学でも中国語の上級のレベルアップすることができるような基礎が築ける。				
学修成果評価項目（％）および評価方法	項目	割合	評価方法		
	基礎学力	35 %	授業参加、テスト		
	専門知識	%			
	倫理観	%			
	主体性	50 %	レポート		
	論理性	%			
	国際感覚	15 %	授業参加		
	協調性	%			
	創造力	%			
	責任感	%			
授業の展開					
1.	ガイダンス ピンインと基本文型の復習				
2.	第一課 中国人の朝食 重要語句 文法要点				
3.	短文読解 練習問題				
4.	第二課 タクシーに乗る 重要語句 文法要点				
5.	短文読解 練習問題				
6.	第三課 高価な映画券 重要語句 文法要点				
7.	短文読解 練習問題				
8.	まとめとテスト				
9.	第四課 AA 製と AB 製 重要語句 文法要点				
10.	短文読解 練習問題				
11.	第五課 病気 重要語句 文法要点				
12.	短文読解 練習問題				
13.	第六課 ネットショッピング 重要語句 文法要点				
14.	短文読解 練習問題				
15.	翻訳レポート				

2023年度シラバス

授 業 外 学 修 に つ い て	授業中に小テストを行うため、復習をしておくこと。				
教 科 書	内田慶市ほか 『中国語への道【準中級編】』 金星堂				
参 考 文 献	適宜指示する。				
試 験 等 の 実 施	定期試験	その他の テスト	課題・ レポート	発表・プレゼンテ ーション	取組状況等
	×	○	○	×	○
成績評価の割合	0 %	20 %	50 %	0 %	30 %
成績評価の基準	本学の評価基準に基づき、成績評価を行う。 秀（100～90点）、優（89～80点）、良（79～70点）、可（69点～60点）、不可（59点～0点）				
試験等の実施、成績評価の基準に関する補足事項	学期末に翻訳レポートを提出する。				

（中国語２）

2023年度シラバス

科 目 名	中国語 3				
配 当 学 年	3 年	必修・選択	選択必修	C A P 制	対象
授 業 の 種 類	講義	単 位 数	1 単 位	授業回数	15
授 業 担 当 者	云 肖梅（非常勤講師）		単位認定責任者	云 肖梅	
実務経験の有無	無				
実務経験のある教員名および授業の関連内容	-				
授 業 科 目 の 概 要	「せっかく中国語Ⅰ（初級レベル）を突破したから、もっと通用するまで勉強したい」と考えている人のために 開設する中国語中級クラスである。講義では中国の最新情報を内容とするテキストを使用し、読解を中心に文法、重要語句を文例で分かりやすく説明する上、朗読、翻訳の練習を行い、凄まじく変貌する中国事情の映像、資料などを楽しみながら中国語の実力をアップする。講義の後半期に中国語検定試験についても紹介し、模擬テストを経験してみる。 中国語 3 の講義内容は中国語 2 の継続で、同一の教科書を使う。				
授 業 科 目 の 到 達 目 標	1. 中国語 1 で習った中国語基本文法をベースに一歩進んで重要語句などが習得できる。 2. 中国語の問題の解答能力を高める。 3. 辞書を使って一般の中国語の文章が読める。 4. 中国語の勉強に伴って最新の中国情報が取得できる。 5. 今後独学でも中国語の上級のレベルアップすることができるような基礎が築ける。				
学修成果評価項目（%）および評価方法	項目	割合	評価方法		
	基礎学力	35 %	授業参加、テスト		
	専門知識	%			
	倫理観	%			
	主体性	50 %	レポート		
	論理性	%			
	国際感覚	15 %	授業参加、レポート		
	協調性	%			
	創造力	%			
責任感	%				
授業の展開					
1.	ガイダンス ピンインと基本文型の復習				
2.	第七課 剩男剩女 重要語句 文法要点				
3.	短文読解 練習問題				
4.	第八課 大学生活 重要語句 文法要点				
5.	短文読解 練習問題				
6.	第九課 感謝を表す 重要語句 文法要点				
7.	短文読解 練習問題				
8.	中国語検定模擬試験				
9.	第十課 若者の就職意識 重要語句 文法要点				
10.	短文読解 練習問題				
11.	第十一課 月光族 重要語句 文法要点				
12.	短文読解 練習問題				
13.	第十二課 海外での奇遇 重要語句 文法要点				
14.	短文読解 練習問題				
15.	翻訳レポート				

2023年度シラバス

授 業 外 学 修 に つ い て	授業中にテストを行うため、復習をしておくこと。				
教 科 書	内田慶市ほか 『中国語への道【準中級編】』 金星堂				
参 考 文 献	授業中適宜指示する。				
試 験 等 の 実 施	定期試験	その他の テスト	課題・ レポート	発表・プレゼンテ ーション	取組状況等
	×	○	○	×	○
成績評価の割合	0 %	20 %	50 %	0 %	30 %
成績評価の基準	本学の評価基準に基づき、成績評価を行う。 秀（100～90点）、優（89～80点）、良（79～70点）、可（69点～60点）、不可（59点～0点）				
試験等の実施、成績評価の基準に関する補足事項	学期末に翻訳レポートを提出する。				

（中国語 3）

科 目 名		科学技術英語 I				
配 当 学 年		3 年	必修・選択	選択必修	C A P 制	対象
授 業 の 種 類		講義	単 位 数	2 単 位	授業回数	15
授 業 担 当 者		Olaf Karthaus		単位認定責任者	Olaf Karthaus	
実務経験の有無		無				
実務経験のある教員名および授業の関連内容						
授業科目の概要		Technical English is different from colloquial English. Technical reports have a strict structure and follow some simple rules. On the other hand, technical reports also contain many unfamiliar phrases, idioms and vocabulary. This lecture will use example texts from various technical and scientific fields, such as natural sciences, engineering, and informatics to teach the peculiar structure and function of a technical report				
授 業 科 目 の 到 達 目 標		1. The students will be able to read technical reports. 2. Students will learn a list of useful vocabulary. 3. Students will learn useful idiomatic phrases that are used in technical reports. 4. Students will learn the grammatical style of a technical report. 5. The students will be able to understand technical reports.				
学修成果評価項目（%）および評価方法		項目	割合	評価方法		
		基礎学力	30 %	レポート、プレゼンテーション		
		専門知識	30 %	レポート、プレゼンテーション		
		倫理観	%			
		主体性	10 %	レポート、プレゼンテーション、取組状況		
		論理性	%			
		国際感覚	10 %	レポート、プレゼンテーション、取組状況		
		協調性	5 %	取組状況		
		創造力	5 %	レポート、プレゼンテーション		
		責任感	10 %	レポート、プレゼンテーション、取組状況		
授業の展開						
1.	Introduction to the topic					
2.	Purpose and structure of a technical report					
3.	Grammatical rules that apply to a technical report I					
4.	Grammatical rules that apply to a technical report II					
5.	Application of those rules					
6.	Idioms, phrases and vocabulary often used in a technical report.					
7.	Greek and Latin roots of vocabulary					
8.	Application of those idioms, phrases and vocabulary I					
9.	Application of those idioms, phrases and vocabulary II					
10.	Translation of a technical report from English to Japanese I					
11.	Translation of a technical report from English to Japanese II					
12.	Translation of a technical report from Japanese to English I					
13.	Translation of a technical report from Japanese to English II					
14.	Translation of a technical report from Japanese to English III					
15.	Summary					

2023年度シラバス

授 業 外 学 修 に つ い て	Memorizing vocabulary. Training of grammar rules.				
教 科 書	ポータルからダウンロードできるプリント Olaf Karthaus ら, “オラフ教授式 理工系のたのしい英語プレゼン術 77”, 講談社, ISBN 978-4065196090, 2 6 4 0円				
参 考 文 献	なし				
試 験 等 の 実 施	定期試験	その他の テスト	課題・ レポート	発表・プレゼンテ ーション	取組状況等
	×	×	○	○	○
成績評価の割合	0 %	0 %	40 %	40 %	20 %
成績評価の基準	本学の評価基準に基づき、成績評価を行う。 秀 (100～90点)、優 (89～80点)、良 (79～70点)、可 (69点～60点)、不可 (59点～0点)				
試験等の実施、成績評価の基準に関する補足事項	「レポート」 翻訳課題 「取り組み状況」 授業中のグループワークとディスカッション				

(科学技術英語Ⅰ)

科 目 名		科学技術英語Ⅱ				
配 当 学 年		3 年	必修・選択	選択必修	C A P 制	対象
授 業 の 種 類		講義	単 位 数	2 単 位	授業回数	15
授 業 担 当 者		Olaf Karthaus		単位認定責任者	Olaf Karthaus	
実務経験の有無		無				
実務経験のある教員名および授業の関連内容						
授業科目の概要		Technical English is different from colloquial English. Technical reports have a strict structure and follow some simple rules. Based on the lecture in spring, this lecture will use this knowledge and the students will write a short technical report about an experiment the students conducted in class.				
授 業 科 目 の 到達 目 標		1. The students will be able to observe experiments in class. 2. The students will learn a list of vocabulary concerning these experiments. 3. Students will be able to use useful phrases and idioms for a technical report. 4. The students will be able to write a 200 word short technical report. 5. Students will be able to listen to the presentation of a technical report.				
学修成果評価項目（%）および評価方法		項目	割合	評価方法		
		基礎学力	30 %	レポート、プレゼンテーション、取り組み状況		
		専門知識	30 %	レポート、プレゼンテーション、取り組み状況		
		倫理観	%			
		主体性	20 %	レポート、プレゼンテーション		
		論理性	%			
		国際感覚	20 %	レポート、プレゼンテーション		
		協調性	%	取り組み状況		
		創造力	%			
		責任感	%	レポート、プレゼンテーション、取り組み状況		
授業の展開						
1.	Introduction to the topic					
2.	Structure of a technical report					
3.	Grammatical rules for a technical report					
4.	Experiment #1					
5.	Idioms, phrases and vocabulary concerning this experiment					
6.	Writing a 200 word report I					
7.	Writing a 200 word report II					
8.	Presentation of the report I					
9.	Presentation of this report II					
10.	Experiment #2					
11.	Idioms, phrases and vocabulary concerning this experiment					
12.	Writing a 200 word report I					
13.	Writing a 200 word report II					
14.	Presentation of the report I					
15.	Presentation of this report II					
授 業 外 学 修 に つ い て		復習について： 授業のノートを整理しながら理解度を確認し、理解できなかったところは次回の授業で質問できるようまとめておく				

2023年度シラバス

教科書	Olaf Karthaus ら, “オラフ教授式 理工系のたのしい英語プレゼン術 77”, 講談社, ISBN 978-4065196090, 2640円				
参考文献	Richard Cowell ら, “技術英語の基本”, コロナ社, ISBN 4-339-07780-1, 2400円				
試験等の実施	定期試験	その他のテスト	課題・レポート	発表・プレゼンテーション	取組状況等
	x	x	○	○	○
成績評価の割合	0 %	0 %	50 %	40 %	10 %
成績評価の基準	本学の評価基準に基づき、成績評価を行う。 秀（100～90点）、優（89～80点）、良（79～70点）、可（69点～60点）、不可（59点～0点）				
試験等の実施、成績評価の基準に関する補足事項	「レポート」 宿題のレポート 「プレゼンテーション」 宿題の口頭プレゼンテーション 「取り組み状況」 授業中のディスカッション				

(科学技術英語Ⅱ)

2023年度シラバス

科目名		英語コミュニケーション			
配当学年	1年	必修・選択	選択	CAP制	対象
授業の種類	講義	単位数	2単位	授業回数	15
授業担当者	Randy L. Evans		単位認定責任者	Randy L. Evans	
実務経験の有無					
実務経験のある教員名および授業の関連内容					
授業科目の概要	Students will learn basic vocabulary and phrases concerning information technology. Much time will be spent writing, preparing and delivering an English presentation. All students will be required to use some kind of presentation software, such as Apple Keynote or Microsoft PowerPoint. This class is held in English. 基本的なITの単語と表現を学ぶ。多くの時間は学生が英語の発表を書いて発表する。この発表でプレゼンテーション・ソフト（例えば、AppleのKeynoteやMicrosoftのPowerPointなど）の使用が求められます。全て英語で行います。				
授業科目の到達目標	1. IT関係の英単語を分かることができる。 2. 英語で指示聞いてタスクをすることができる。 3. プレゼンテーションを英語で書くことができる。 4. 英語でプレゼンテーションソフトを使ってプレゼンテーションを作成することができる。 5. 効果的な英語プレゼンテーションを行うことができる。				
学修成果評価項目（％）および評価方法	項目	割合	評価方法		
	基礎学力	50 %	定期試験		
	専門知識	%			
	倫理観	%			
	主体性	%			
	論理性	%			
	国際感覚	%			
	協調性	%			
	創造力	50 %	プレゼンテーション		
	責任感	%			
授業の展開					
1.	Introduction イントロダクション				
2.	Mobile Technologies モバイルテクノロジー				
3.	Computational Thinking 計算論的思考				
4.	Web Literacy ウェブリテラシー				
5.	Digital Media デジタルメディア				
6.	Word Processing ワードプロセッシング				
7.	Social Media ソーシャルメディア				
8.	Databases & Spreadsheets データベースとスプレッドシート				
9.	Graphing グラフの作り方				
10.	Using Presentation Software プレゼンテーションソフトの使い方				
11.	Writing the Final Presentation 最終プレゼンテーションの作成				
12.	Designing the Final Presentation 最終プレゼンテーションの設計				
13.	Preparing for the Final Presentations 最終プレゼンテーションの準備				
14.	Final Presentations 最終プレゼンテーション				
15.	Final Presentations 最終プレゼンテーション				

2023年度シラバス

授 業 外 学 修 に つ い て	We will use some class time for making the presentations, but students will largely complete the presentations outside class. Students should also use their own time to review the vocabulary, as well as other small assignments. プレゼンテーション作成は授業内でも行いますが、殆ど授業外に作成する必要があります。さらに、授業外に単語の復習やその他の宿題に取り組む必要があります。				
教 科 書	適宜プリントを配付・使用する				
参 考 文 献	なし				
試 験 等 の 実 施	定期試験	その他の テスト	課題・ レポート	発表・プレゼンテ ーション	取組状況等
	○	○	×	○	×
成績評価の割合	40 %	20 %	0 %	40 %	0 %
成績評価の基準	本学の評価基準に基づき、成績評価を行う。 秀（100～90点）、優（89～80点）、良（79～70点）、可（69点～60点）、不可（59点～0点）				
試験等の実施、成績評価の基準に関する補足事項					

(英語コミュニケーション)

科 目 名		実用英語				
配 当 学 年		1 年	必修・選択	選択	C A P 制	対象
授 業 の 種 類		講義	単 位 数	2 単 位	授業回数	15
授 業 担 当 者		磯部 靖世		単位認定責任者	磯部 靖世	
実務経験の有無						
実務経験のある教員名および授業の関連内容						
授 業 科 目 の 概 要		大学入学までに勉強した英文法を会話などに実践的に使い、定着することを目指す。また、授業内の活動を通じて、自分の研究や興味があることが英語で話す、書く、聞く、読む練習を行う。理系では英語が共通語として使われることが多く、様々な国の人と英語でコミュニケーションをとることを見据えて、授業では様々な国の人が話す英語を教材として扱う。授業の課題として、エッセイ、シャドーイング、スピーキングがあり、これらを通して4技能（聞く・話す・書く・読む）を強化する（タイミングによっては、海外の大学とのオンライン交流がある）。なお、本クラスは英語でのペアまたはグループを授業で実施する。また、本授業では、授業の一環としてセルフスタディー（自律学習）を行う（詳細は初回授業で説明）。セルフスタディーは各学生が興味があることを英語で学習することために、学習計画・学習目的をたて、学習を進めることにより、自律学習能力を養うことを目的とする。				
授 業 科 目 の 到 達 目 標		1. これまで学習してきた文法を実践的に使うことができる。 2. さまざまな話題（例えば旅行、休暇、買い物、セルフスタディーなど）について、自分の意見を英語で述べることができる（口頭で1分程度、エッセイで130語程度）。 3. 英語のパラグラフの書き方を理解し、理論的なトピックセンテンスを書くことができる。 4. カタカナ英語ではなく、英語の発音（語末の母音を落とすなど）を意識することができる。 5. セルフスタディー（自律学習）を通して、自律学習能力を身につけることができる。				
学修成果評価項目（%）および評価方法		項目	割合	評価方法		
		基礎学力	20 %	その他テスト		
		専門知識	%			
		倫理観	%			
		主体性	40 %	その他テスト（セルフスタディー）		
		論理性	30 %	課題・レポート		
		国際感覚	%			
		協調性	%			
		創造力	%			
		責任感	10 %	取組状況等		
授業の展開						
1.	授業とセルフスタディーの説明、日本語と英語の違い（発音編）					
2.	日本語と英語の違い（書き方編）					
3.	Unit 1 College Life; 初対面の人との会話のフレーズ練習					
4.	Unit 1 の続きと Unit 2 Mobile Phones;約束・予約の取り付け方と電話での会話					
5.	Unit 1 のクイズと Unit 2 の続き					
6.	Unit 2 のクイズ、Unit 1 & 2 のエッセイ					
7.	Unit 3 Movies;（友達などの）誘い方と断り方の練習					
8.	Unit 3 の続きと Unit 4 Dating;人の描写のしかた					
9.	Unit 3 のクイズと Unit 4 の続き					
10.	Unit 4 のクイズ、Unit 3 & 4 のエッセイ					
11.	Unit 5 International Food;お願いのしかたとレストランでの会話					

12.	Unit 5の続き&Unit 6 World Englishes; 繰り返し言ってもらうときの練習				
13.	Unit 5のクイズ、Unit 6の続き				
14.	Unit 6のクイズ、Unit 5 & 6のエッセイ				
15.	Unit 7 Weekends/Vacations; 週末や休暇について話す練習				
授 業 外 学 修 に つ い て	授業外の予習・復習として、以下の内容取り組むこと。 ・教科書の内容には授業前に目を通し、わからないことばは調べておく（20分程度）。 ・授業後には、授業で扱った表現やことばの復習をしておくこと。（20分程度）。 ・各自、教科書の音声はダウンロードをすること。 https://www.kinsei-do.co.jp/download/4003 ・セルフスタディー（自律学習）を授業の一環と行うため、授業で取り扱う内容とは別にセルフスタディーを各自行うことが求められる。				
教 科 書	Global Activator; Your English, my English, world Englishes, Tadashi Snihozawa and Gregory A. King 著（金星堂）				
参 考 文 献	特になし				
試 験 等 の 実 施	定期試験	その他の テスト	課題・ レポート	発表・プレゼンテ ーション	取組状況等
	×	○	○	×	○
成績評価の割合	0 %	60 %	30 %	0 %	10 %
成績評価の基準	本学の評価基準に基づき、成績評価を行う。 秀（100～90点）、優（89～80点）、良（79～70点）、可（69点～60点）、不可（59点～0点）				
試験等の実施、成績評価の基準に関する補足事項	・授業への出席回数が3分の2未満の場合には、本クラスは不合格となる。 ・課題は提出期限を過ぎたものや翻訳ツールを使った課題は評価対象外となる。 ・他の学生の課題や文献などをコピーをした場合は「不合格」となる。 ・授業中の居眠りやスマホいじりなどは「欠席扱い」となる。 ・授業の進度や内容などは、状況により変更の可能性がある。				

(実用英語)

科 目 名		時事英語					
配 当 学 年		1 年	必修・選択	選択	C A P 制	対象	
授 業 の 種 類		講義	単 位 数	2 単 位	授業回数	15	
授 業 担 当 者		小川 正浩		単位認定責任者	小川 正浩		
実務経験の有無							
実務経験のある教員名および授業の関連内容							
授 業 科 目 の 概 要		この授業では、ニュース英語を題材にして、初中級レベルの英語力を養成することと時事問題に関する知識を深めるとともにそれに対する自己意識を高めることを目標とする。					
授 業 科 目 の 到 達 目 標		1 ニュース英語の構成（headline, lead, body）や特徴（be動詞の省略など）を知ることができる。 2 ニュース英語を読む際に必要な基本単語を身につけることができる。 3 ニュース英語を読むことで国内・国外の様々な問題を知ることができ、それに対する自分の考えをまとめて意見を述べることができる（リアクションペーパーの作成）。 4 副教材として利用するCNNの短いニュース記事には3種類の音声を用意されているのでリスニングが苦手な学習者でも段階的に聞き取りの練習ができ、最終的には短いニュース英語を聞き取って内容が理解できるようになる。 5 多読によって簡単な物語や身近なことに関する英文を和訳せずに早く読むことができる（直読直解）。					
学修成果評価項目（％）および評価方法		項目	割合	評価方法			
		基礎学力	50％	％	期末テスト		
		専門知識		％			
		倫理観		％			
		主体性	30％	％	課題提出（多読・副教材の演習問題）、プリント（ニュース英語）の予習		
		論理性	10％	％	リアクションペーパーの作成		
		国際感覚	10％	％	世界の諸問題に関する自分の考えや意見		
		協調性		％			
		創造力		％			
		責任感		％			
授業の展開							
1.	ガイダンス（授業の進め方など）						
2.	ニュース英語（日本）、課題提出（多読・演習問題）						
3.	ニュース英語（ソマリア）、課題提出（多読・演習問題）、リアクションペーパー提出						
4.	ニュース英語（中国）、課題提出（多読・演習問題）、リアクションペーパー提出						
5.	ニュース英語（カナダ・アイルランド）、課題提出（多読・演習問題）、リアクションペーパー提出						
6.	ニュース英語（サウジアラビア）、課題提出（多読・演習問題）、リアクションペーパー提出						
7.	ニュース英語（タイ・韓国）、課題提出（多読・演習問題）、リアクションペーパー提出						
8.	ニュース英語（アメリカ）、課題提出（多読・演習問題）、リアクションペーパー提出						
9.	ニュース英語（イスラエル）、課題提出（多読・演習問題）、リアクションペーパー提出						
10.	ニュース英語（ミャンマー・バングラディッシュ）、課題提出（多読・演習問題）、リアクションペーパー提出						
11.	ニュース英語（アフガニスタン）、課題提出（多読・演習問題）、リアクションペーパー提出						
12.	ニュース英語（ロシア）、課題提出（多読・演習問題）、リアクションペーパー提出						
13.	ニュース英語（エストニア）、課題提出（多読・演習問題）、リアクションペーパー提出						

2023年度シラバス

14.	ニュース英語（オーストラリア）、課題提出（多読・演習問題）、リアクションペーパー提出				
15.	まとめ				
授 業 外 学 修 に つ い て	授業外学習は、以下の項目に毎週少なくとも4時間程度あてることが望ましい。 1 プリント（ニュース英語）の予習（日本語訳作成） 2 リアクションペーパーの作成 3 多読の課題（1週間に2500語以上） 4 副教材の演習問題				
教 科 書	真野泰『CNN ワールドニュース：文化・社会編』（朝日出版社） （ニュース英語に関してはプリントを配布する。）				
参 考 文 献	特になし。				
試 験 等 の 実 施	定期試験	その他の テスト	課題・ レポート	発表・プレゼンテ ーション	取組状況等
	○	×	○	×	○
成績評価の割合	50 %	0 %	20 %	0 %	30 %
成績評価の基準	本学の評価基準に基づき、成績評価を行う。 秀（100～90点）、優（89～80点）、良（79～70点）、可（69点～60点）、不可（59点～0点）				
試験等の実施、成績評価の基準に関する補足事項	・評価や授業の進め方、辞書の携帯等に関しては、ガイダンス時に詳細に説明するので、履修希望者は必ず出席すること。 ・授業は「対面授業」のスタイルで行う。また。実際の授業にあたって上記の授業内容に変更が生じる場合があるかもしれないことを予めご了承ください。変更が生じる場合は、ガイダンス時または授業時に連絡する。				

（時事英語）

科 目 名	スポーツ総合 1				
配 当 学 年	1 年	必修・選択	選択	C A P 制	対象外
授 業 の 種 類	実習	単 位 数	1 単 位	授業回数	15
授 業 担 当 者	内藤 貴司（非常勤講師）		単位認定責任者	内藤 貴司	
実務経験の有無	無				
実務経験のある教員名および授業の関連内容	－				
授 業 科 目 の 概 要	入学時のアイスブレーキングの導入と、体力診断テストとバレーボール、バスケットボールの3種目についてゲームを中心に展開する。受講者数に応じて内容をカスタマイズすることがある。				
授 業 科 目 の 到 達 目 標	1. 受講者が主体的にそれぞれの運動種目について取り組むことができる。 2. チームメイトとコミュニケーションができる。 3. 受講者がそれぞれの運動種目における基本練習について、内容把握ができる。 4. それぞれの競技種目のルールを理解し、ゲーム管理ができる。 5. 体力レベルの劣る受講者への配慮と協力ができる。				
学修成果評価項目（％）および評価方法	項目	割合	評価方法		
	基礎学力	％			
	専門知識	％			
	倫理観	％			
	主体性	60 ％	取組状況等		
	論理性	％			
	国際感覚	％			
	協調性	30 ％	取組状況等		
	創造力	％			
	責任感	10 ％	取組状況等		
授業の展開					
1.	ガイダンス：受講上の注意と評価方法について				
2.	体力診断テストⅠ				
3.	バレーボール：パスドリル、チーム編成と簡易ゲーム				
4.	バレーボール：レシーブ、サーブ&レシーブ、リーグ戦				
5.	バレーボール：トスからスパイク、レシーブフォーメーション、リーグ戦				
6.	バレーボール：クイック・ブロックフォーメーション、リーグ戦				
7.	バスケットボール：パス、ドリブル、シュートの基本、ミニゲーム、3×3ゲーム				
8.	バスケットボール：オフェンスの種類と動きの解説、ゲーム				
9.	バスケットボール：ディフェンスの技術解説、ポジション確認、ゲームリーグ戦				
10.	バスケットボール：戦術確認、ゲームリーグ戦				
11.	ソフトボール：キャッチボール、発展キャッチボール、チーム編成と簡易ゲーム				
12.	ソフトボール： ピッチング（スリングショット・ウインドミル投法等の挑戦）、チーム編成と簡易ゲーム				
13.	ソフトボール： シートノック（内野中心）、チーム編成、リーグ戦				
14.	ソフトボール： 発展シートノック、チーム編成、リーグ戦				
15.	体力診断テストⅡ、まとめ				
授 業 外 学 修 に つ い て	本授業における到達目標を各自で設定すること。 例えば				

	・ストレッチングの手順と種類を用意しておく。 ・基礎技術練習を考えておく。 ・選択種目のルールを確認しておく。 ・ゲーム評価を含め、前回の授業内容を整理しておく。 * 授業開始前、終了後の体力づくり、トレーニング、健康関係の質問、相談に対処する。				
教科書	使用しない。				
参考文献	資料等は適宜配布する。				
試験等の実施	定期試験	その他のテスト	課題・レポート	発表・プレゼンテーション	取組状況等
	×	×	×	×	○
成績評価の割合	0 %	0 %	0 %	0 %	100 %
成績評価の基準	本学の評価基準に基づき、成績評価を行う。 秀（100～90点）、優（89～80点）、良（79～70点）、可（69点～60点）、不可（59点～0点）				
試験等の実施、成績評価の基準に関する補足事項					

(スポーツ総合1)

科 目 名	健康科学				
配 当 学 年	1 年	必修・選択	選択	C A P 制	対象
授 業 の 種 類	講義	単 位 数	1 単 位	授業回数	8
授 業 担 当 者	内藤 貴司（非常勤講師）		単位認定責任者	内藤 貴司	
実務経験の有無	無				
実務経験のある教員名および授業の関連内容	-				
授 業 科 目 の 概 要	我が国の科学技術や交通機関の日進月歩の発達は、国民の生活環境に大きな変化をもたらし、我々の生活をより快適で利便なものへと変化させてきました。その恩恵の反面、慢性的な運動不足による生活習慣病やストレスの増大等、我々国民の様々な健康問題を誘発するといった弊害を招いています。一方で、近年の競技スポーツはスポーツ科学の発展によって競技力が国内外問わず大きく進歩しています。本講義では、現代人が抱える健康問題を健康科学・スポーツ科学の観点から科学的根拠（学術論文）に基づいて概説します。加えて、最新の知見を紹介し、今後の自身の健康行動やスポーツ活動に活かせるように解説します。				
授 業 科 目 の 到 達 目 標	1. 現代社会の健康問題を認識し、健康観を意識することができる 2. 健康障害と生活習慣の関連を認識し、運動の必要性を意識することができる 3. 基本的な身体解剖学・生理学・栄養学の知識を身につけることができる 4. 学修した知識を活かして、健康増進に必要な方策を設計できる 5. 学修した知識を活かして、スポーツ競技力向上に必要な方策を設計できる				
学修成果評価項目（%）および評価方法	項目	割合	評価方法		
	基礎学力	20 %	小テスト		
	専門知識	50 %	小テスト、レポート		
	倫理観	%			
	主体性	%			
	論理性	30 %	レポート		
	国際感覚	%			
	協調性	%			
	創造力	%			
	責任感	%			
授業の展開					
1.	ガイダンス（授業の進め方）、データの見方、健康観				
2.	生活習慣病				
3.	メンタルヘルス、目標設定				
4.	体力、疲労と回復				
5.	身体組成、PFC、水分補給				
6.	トレーニング理論、有酸素性運動				
7.	体温調節、身体冷却				
8.	発育発達加齢				
授 業 外 学 修 について	前回授業内容に係る小テストを実施するので、復習をしておくこと。				
教 科 書	なし、資料を配布する。				
参 考 文 献	「実習で学ぶ健康・運動・スポーツの科学」九州大学健康科学センター編 大修館書店 2011 「NSCA 決定版（第3版）ストレングストレーニング&コンディショニング」日本語版総監訳 金久博明 ブックハウス HD 2015				

2023年度シラバス

	「スポーツ栄養学 科学の基礎からなぜ？にこたえる」寺田新 東京大学出版会 2017 「2020 年版スポーツ栄養学最新理論」寺田新編著 市村出版 2020 「スポーツ現場における暑さ対策 スポーツの安全とパフォーマンス向上のために」長谷川博・中村大 輔編著 2021				
試 験 等 の 実 施	定期試験	その他の テスト	課題・ レポート	発表・プレゼンテ ーション	取組状況等
	×	○	○	×	×
成績評価の割合	0 %	60 %	40 %	0 %	0 %
成績評価の基準	本学の評価基準に基づき、成績評価を行う。 秀（100～90点）、優（89～80点）、良（79～70点）、可（69点～60点）、不可（59点～0点）				
試験等の実施、成績評価の基準に関する補足事項	この講義は全8回です。				

（健康科学）

科 目 名	スポーツ総合 2					
配 当 学 年	1 年	必修・選択		選択	C A P 制	対象外
授 業 の 種 類	実習	単 位 数		1 単 位	授業回数	15
授 業 担 当 者	内藤 貴司（非常勤講師）			単位認定責任者	内藤 貴司	
実務経験の有無	無					
実務経験のある教員名および授業の関連内容	－					
授 業 科 目 の 概 要	クラスの意識を持たせるためにチームゲーム、団体戦方式でミニバレー、ラケットテニス、卓球の３種目を展開し、フィットネステスト（新体力テスト）では、現状における個々人の体力確認をする。受講者数に応じて内容をカスタマイズすることがある。					
授 業 科 目 の 到 達 目 標	１． 受講者が主体的にそれぞれの運動種目についての取り組むことができる。 ２． チームメイトとコミュニケーションができる。 ３． 受講者がそれぞれの運動種目における基本練習について、内容把握ができる。 ４． それぞれの競技種目のルールを理解し、ゲーム管理ができる。 ５． 体力レベルの劣る受講者への配慮と協力ができる。					
学修成果評価項目（％）および評価方法	項目	割合	評価方法			
	基礎学力	％				
	専門知識	％				
	倫理観	％				
	主体性	60 ％	取組状況等			
	論理性	％				
	国際感覚	％				
	協調性	30 ％	取組状況等			
	創造力	％				
責任感	10 ％	取組状況等				
授業の展開						
1.	ガイダンス：受講上の注意と評価方法について					
2.	フィットネステストⅠ					
3.	ミニバレーボール：パスドリル、チーム編成と簡易ゲーム					
4.	ミニバレーボール：サーブ＆レシーブ、リーグ戦					
5.	ミニバレーボール：スパイク、ブロック、レシーブフォーメーション、リーグ戦					
6.	ミニバレーボール：クイック・ブロックフォーメーション、リーグ戦					
7.	バドミントン：クリア、ドロップ、ヘアピン等のショットスキルの習得、2人組ラリー、簡易ゲーム					
8.	バドミントン：スマッシュ、ドロップの使い分け、シングルスリーグ戦					
9.	バドミントン：応用ストローク、ブロック別のダブルスローテーションゲーム					
10.	バドミントン：ストロークの完成、参加者全員によるダブルスローテーションリーグ戦					
11.	卓球：サービス＆フォアハンドストローク、シングルスゲーム					
12.	卓球：バックハンドストローク、1対1のラリー、シングルスゲーム					
13.	卓球：ショート打法とスマッシュ、ダブルスゲーム					
14.	卓球：ドライブ＆カット打法、ダブルスゲーム					
15.	フィットネステストⅡ、まとめ					
授 業 外 学 修 に つ い て	本授業における到達目標を各自で設定すること。 例えば					

	・ストレッチングの手順と種類を用意しておく。 ・基礎技術練習を考えておく。 ・選択種目のルールを確認しておく。 ・ゲーム評価を含め、前回の授業内容を整理しておく。 * 授業開始前、終了後の体力づくり、トレーニング、健康関係の質問、相談に対処する。				
教科書	使用しない。				
参考文献	資料等は適宜配布する。				
試験等の実施	定期試験	その他のテスト	課題・レポート	発表・プレゼンテーション	取組状況等
	×	×	×	×	○
成績評価の割合	0 %	0 %	0 %	0 %	100 %
成績評価の基準	本学の評価基準に基づき、成績評価を行う。 秀（100～90点）、優（89～80点）、良（79～70点）、可（69点～60点）、不可（59点～0点）				
試験等の実施、成績評価の基準に関する補足事項					

(スポーツ総合2)